

# 『土曜講習』（2025年度・高校入試対策）につき

## I 土曜講習の意義

① 公立高校入試まであと5ヶ月と3週間（私立高校の場合は4ヶ月と2週間）という所まで来ました。ただ、特に、英語・数学を中心として、まだまだこれから習う分野が入試問題の核を占めるのであって（英語ならば、「分詞の形容詞的用法」「名詞を修飾する節」「関係代名詞節」「間接疑問文」「仮定法」など。数学ならば「 $X^2$ に比例する関数」「相似と図形」など。）今まで以上に気合を入れて勉強する必要があります。その難しい分野（特に数学では「図形」と「関数」の融合問題にかなりの時間を費やします。「相似」の分野では、否応なく、相当の時間を取られます。）を学習しながら、入試問題にもできる限り多くあたり、慣れておく必要がある、というのがここから入試までに『十分な勉強量』と第一志望校合格に向けて受験勉強をやり抜く『強い意志』が必要とされるゆえんなのです。（特に私立高校の入試問題は、相当程度過去の問題をやり込んで慣れておかないと対応できない、というのが現状です。）

② i) また、私立高校の問題は自分ひとりで解くには難しいものが多い（特に数学と、英語の全般）、そのために神田塾の『土曜講習』を利用していただく意味は十分にあると思いますし、何よりも難しい問題に数多くあたることにより「公立高校入試に余裕を持って臨む」ことができる、という大きなメリットがあります。（勿論、基本は「公立中堅校」「上位校」の合格に必要な実力を養うことにありますので、いわゆる『癖のある問題』や『超難問』に時間を費やすことはしません。）

ii) 2017年度を境に公立高校入試が一気に「難化」しました。各教科20問⇒22問（時間は、40分⇒45分に（英語は50分程度））となりましたが、「問題量が増える」以上に、「問題のレベル」が相当に上がっています。これは2022年昨年度からの大学受験の変革を踏まえてのものですが、この「難化」に対応するには、当然ですがこれまで以上に「相当の準備」をする必要があります。昨年度からは今までに類

を見ない大きな制度改革が行われました。マークシート方式になったことよりも、入試が2週間早くなったことにより、生徒さんの負担は相当に大きなものとなってしまいました。

## Ⅲ 公立高校入試の難化

① 2017年度より愛知県の公立高入試が、一気に難化しました。かねてから予想されたことですが、特に英語において、形だけは従来のものを踏まえながら内容は劇的に難しくなっています。また、愛知県の国語は、従来より簡単なことで有名だったのですが、これも論説・説明文を中心に大きく変わってきました。(今年度の国語は、今までに例を見ない厳しいものとなり、このことが合否にかなりの影響を与えました。) 数学では、2017年度入試より、それまでになかった「高い思考力」を要求する問題が出されはじめています。英語を解く力に、より正確に文脈を読み取るよう、読解力が要求されるようになったのも4年前からです。2019年度Aグループの理科でも、今までに全くなかった新傾向の問題が出されました。これも「読解力」に加え、「粘り強く考える」練習を繰り返しておけば、対応できたはずです。(2022年度の社会もそうです。) ともかく、この4年間は、入試制度そのものの改変を受け、「より高い実力」が要求されるようになったのです。(中堅校の場合。上位校は、「高いレベルでの実力勝負」となります。) 今後、さらに一層入試の難化に拍車がかかることは疑いようがありません。

② 当分の間、5教科の一層の難化が予想されますが、これは国の教育に対する方針・施策を考えれば当然のことと思います。特にここ3・4年間の入試では、当日点が取りにくい為、内申点のある人が有利になりました。が、問題の難化が続けば、やはりそれに対応する力をつけねばなりませんし、実際、生徒の皆さんは対応できる力をつけて行くものです。2022年入試からは、従来の合格判定の3パターン(I・II・III)に加えて、IV・Vが加わりました。当然ほとんどの進学校がVを選択することになりましたが、当日の学力検査点が2倍

(Ⅲは1.5倍)されるため、従来と違って多少『内申点』が低くても、当日勝負に持ち込むことが可能になります。「実力」を絶対につける必要があります。

- ③ 神田塾ではこの流れに対応するべく本年度も『土曜講習』を開催させていただきます。2017年度入試より、大きな変革が起きました。思考力、判断力、表現力がより重視されるようになり、今後当分の間、公立高校の入試が今まで以上に難化するの、想像に難くありません。②で述べた通りです。それを踏まえての、『土曜講習』を行います。

なお、ある程度入試問題にも慣れ、実力も定着した後は、今度は本番の入試問題でミスを犯さない、すなわち失点しないための講座を予定しています。(予定では12月より。)

#### Ⅳ 土曜講習費用について

保護者様には大変恐縮ですが、土曜講習費用は、授業時間増加分に按分比例して、費用も増額させていただきます。ご負担をお掛け致しますが、宜しくお願い致したいと存じます。

1回3時間20分授業、6か月(‘24年9月7日～’25年2月22日予定)62,700円、月割10,450円、税込み。テキスト代3,500円となります。(塾外生の方は、6か月99,000円、月割り16,500円、税込みとなります。)

趣旨および私共の意図をご理解賜り、どうか宜しくお願い申し上げます。

※面談の希望がございましたら、ご遠慮なくお申し出ください。

2024年8月

神田塾 塾長 神田隆巳

## 重要 高校入試とスマホ及びゲームにつき

①5年前大手各新聞は、一斉に『ゲーム障害』を取り上げました。未だかつてなかったことです。

中日新聞では5年前7月8日に一面を割いてスマホ、ゲームの「恐さ」を指摘し、4年前8月4日の社説では、「ゲーム障害」と題して、WHO（世界保健機関）が「国際疾病分類」に依存症の1つとしてゲーム障害を加えた、と記載しました。「ギャンブルやアルコール、薬物などの依存症と同様に、脳の機能に障害が生じる。ゲームで得られる快楽は、覚せい剤を投与されたのに匹敵するという指摘さえある。自らの意志では断ち切れなくなるから恐ろしい。」とし、「特に心身共に発達途上の若い世代への広がり強く憂慮される。」とした上で、最後に、「スマホ業界、ゲーム業界にも知恵を絞るべき責任がある。」と結んでいます。（数日後にも、中日新聞は同じ内容の記事を載せています。）「朝日」「読売」「毎日」等も同様の内容の記事を載せています。

② 実にあいまいな表現ですが、何よりも「大手新聞が、スマホやゲームの依存症を載せた事実」が、事の重大さを如実に物語っています。名古屋市内で心療内科を営んでいる私の大学時代の友人の医師に言わせれば、「何を今頃。」とのことですが、そのくらい以前からこの問題は起きていて、根が深い、というものです。

③ 私がスマホの弊害（恐さ）（当初はいわゆる「ガラケー」でした）を知ったのは今から14年ほど前です。弊害として実際に私が塾生を見てきて体験したことをここに書いたら、その人数、内容も含めて、塾生よりも、むしろ保護者の皆様が驚愕されると思います。面談等で話すと、「オーバーじゃないか。」と感じられる方が多いみたいですが、事実しか話していません。

④ 体験した具体例は、ここでは一切書きませんが、私が強調したいのは、高校受験（中3生はもちろん、中2・中1生にとっても）にとって、スマホ及びゲームは、百害あって一利なし、どころか、人生をダメにしてしまう怖れさえ持っている、ということです。受験生にとって12月～2月は、かなりのプレッシャーがかかります。目先のプレッシャーから逃避するには、手元にあるスマホやゲームをする（＝のめり込む）のが一番手っ取り早いでしょう。その結果一気に「ゲーム脳」

になり、脳が極端に疲れ、知識の吸収を受け付けなくなり、思考力を奪い、ひどい場合は「依存症」へとさえなって行きます。(これも塾で実際にそういう生徒を見てきています。塾に来た時、その生徒はゲームの為に朝起きることが出来なく、すでに学校へ行っていなかったのですが。) 親には見えていなくても、一時的に現実逃避しようとする受験生の中には、朝までベッドの中でゲームをする人もいます。入試当日の朝までゲームをし、一睡もせずに受験した生徒さえいます。(勿論、不合格でしたが。)

⑤ スマホ、ゲームの弊害は、成績が良い、悪いに関係ありません。そしてまた、学年にも関係ありません。ある程度以上スマホに触れ、ゲームをしている生徒は、ある日から突然塾の授業中、必ず同じ行為をします。勿論、私達はすぐに手を打ちますが、その時点では、相当危ういところまで来ているのもまた共通するところで

⑥ 一般論ですが、高校生がスマホやゲームに触れるのと、中学生とでは、全く違います。中学生は、簡単にはまり、そして、依存するようになります。本当は中学生の全員に言いたいのですが、あえて中3受験生に再度(何度も何度も言ってきたことですが。)言います。スマホ及びゲームとは即刻手を切り、強い意志を持ってエネルギーの全てを高校受験にぶつけてください。人生の初めての関門にあたって、「努力すべき時に自分は精いっぱい努力をした。」そういう実体験をして欲しいと、心から私達は願い、指導させて頂いています。人生最初の関門での「頑張り」は必ず、お金では買うことのできない一生の貴重な財産となるはずです。(参考までに、今の高2生は中3時、塾で22名が「スマホ」を預かってくれと来ました。そのほとんどの人が学年「5番以内」に入って入試を迎えました。)

《参考文献》

### 『スマホ脳』

アンデシュ・ハンセン著(新潮新書・発行)1,078円

\*世界的にベストセラーとなっているようです。是非お読みください。

(塾でも販売しています。)